

9. 教師用指導書

村野良子

I マニュアルというものの存在理由について

一般的にどの教科書にも、その作成者が目指すゴールがあり、その目標の達成のためにある形式で学習項目が提示され、ドリルが作られ、種々の教材が組まれている。言い換えれば、作成者の意図を理解し、そのやり方で授業を進めることがテキストが約束する最終的なアウトプットを保証するための必要条件である。このようなことから、最近出版される殆どの教材に指導書というものが付けられるようになった。

指導書ブームにはもう一つの背景がある。即ち、日本語教師がプロであった一昔前はマニュアルは不要どころか、むしろない方がよいようなものだったろう。教師はそれぞれ個性ある授業をすることに腐心していたから、「この通りにすれば初心者にも簡単にできます」タイプのマニュアルなど要らないもののトップに挙がったに違いない。ところが、日本語人気が高まり学習者が急増し、教師が足りなくなった。初心者にでも出来るマニュアルを作って、素人をにわか教師に仕立てる。国内だけでなく、国外でも同様の事情であると聞く。教師の絶対数の増加は喜ぶべきことではあるが、質の低下は問題である。

I C U初級教科書にもこの2つの理由から本冊（ドリル用）、漢字教材、読解教材の3分冊に関して教師用指導書が部分的に作成されている。後者2分冊の指導書については、それぞれの教材の報告にふくまれるはずなので、ここでは本冊用についてのみ簡単に紹介したい。

II ドリル用分冊の指導書の形式と内容について

指導書が新米教師を対象とし、授業の均一化を目的とするものであれば、教案に近い内容の記述が必要である。また言語の学習には文化・社会的知識や異文化理解の視点が欠かせないので、そのような問題意識を持たない教師のために、注意を喚起する必要もあるだろう。むしろ授業の流れを記述することやその記述に触れることは、経験の長い教師にとっても自分の授業を反省するよい刺激であり、異なるやり方の価値を認識することもあるという利点があることも忘れてはならない。次に2課の第一時間目の指導書の一部を載せておく。まだ試案の段階にあるが、授業の流れ、用意する教材、指導上の注意点の3つに分けて記述してみた。

授業の流れ

1 挨拶・開始



2 イメージ
ビデオ イラスト



3 話し合い
↓
聞く
時間料金 値段



4 フォーメーション 1



5 フォーメーション 2



6 ドリル 1



7 ドリル 2



1 曜日の確認

2 イメージビデオの視聴ビデオがなければ教科書のイラストを見せる

3 3つの場面と対話者の違いによる聞き方・言語行動の違いに注意を向けさせる

4 ① flash cardで1～10の数の練習をし、11～20やさしいことを印象づける。先ず教師が読み学生が繰り返す。順番を変えて練習

ペアでカルタとりの要領でカードをとる。

とったカードはイチ、ニと声にだして数える

② 1～20の数を使ったビンゴゲーム

5 模型の時計を使う。時計で時刻を作りながら

6 1～12まで(3時)、半の言い方、～時です、～時ですか、はい／いいえ、何時ですか、の順で練習。最初はT→S、次にS→S、

7 現実の伝達に近い形で仕種をいれて練習。

ロールカードを使って、色々な場面の

人間関係が練習出来るようにする

相手の注意をひく、謝意をのべる、確認のための相槌、丁寧な表現がポイント

用意する教材

2 ビデオデッキ、テープレコーダー

4 数字を書いたカード(カードの大きさは教室用の提示とゲームの両方に使えるよう10cm四方程度あると便利)

ビンゴゲーム

例

1	9	10
5	3	7
6	8	4

5 模型の時計、デジタル時計のような時刻

6 表示カード

例

0 7 : 0 0 A M

7 ロールカード

A You are a student. Ask the time in the crowded train.

B You are on your way to work in the crowded train and are asked the time by a pretty girl.

④ A Bともに学生 場所:ロックコンサート会場

⑤ Aは1時間もGFを待っている男性

⑥ Bは通りがかりの人 場所:新宿

注意すること

⇒ 笑顔で授業を開始する。学生の様子を観察
疲れているような学生には側に行って、
の言葉をかける。

⇒ ビデオを視聴するときは、画面に対する学
生の反応に注意、関心を引いた場面を記憶
し、後で話題にする

⇒ 知らない人に情報を尋ねるやり方がこのイ
メージのポイント、3つの場面の違いに注
意させる

⇒ ペアで。沢山取れた学生は読み手にし、取
れない学生に練習させる

⇒ ゲームは何度かやって、得点を記し、チャ
ンピオンに小さい賞(シールなど)を用意
すると励みになる。子供っぽいようでも、
大人にも効果がある

⇒ 1時と7時、9時と10時は間違いやすい
ので、カードで交互に練習。この辺りでは
少しかじったことのある学生もいるので、
そういう学生は「はい、〇〇さんは先生で
す」と言って、時計を渡し、教師役をさせ
ると、退屈そうにされないですむ。このよ
うな単純な練習も学生同士で学び合う機
会にして、グループの交流を深め、学び合
う雰囲気育てよう

⇒ 人に物を尋ねるときの好ましい言語行動が
ポイントなので声のトーンや物腰などの非
言語的側面を大切に。イメージを映像
を再度見せて参考にさせる。ロールプレ
イをさせる時は場面や人物を色々変えると、
簡単な対話が生きてくる。例えば

① Aは学生 Bは主婦 場所:デパートで

② Aは若い女子学生 Bは中年の男性 場所:満員電車

③ A Bともに学生 場所:映画館の中